

# 草津未来研究所 News Letter

令和8年2月5日発行

幸せリーグ

～住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合～

## 令和7年度幸せリーグ実務者会議成果報告会に参加しました

令和8年1月27日、オンラインにて「令和7年度幸せリーグ実務者会議成果報告会」が開催されました。「幸せリーグ」とは、住民の幸福度に基づく行政運営を目指す基礎自治体が連携し、意見交換、情報交換等を行うことにより、参加基礎自治体の住民が真に幸福を実感できるような地域社会を目指すことを目的に、幸福度指標を作成した先進地である東京都荒川区が全国の自治体に呼びかけて設立された連合体です。草津市は、平成25年から参加しています。

幸せリーグでは、各自治体の実務担当者による会議を開催し、現代の地方自治が直面する諸課題についてテーマ別に議論を重ねています。令和6年から7年にかけては、以下の8グループに分かれ、各自治体が取り組む諸課題に対して現状の共有ならびにディスカッションが行われました。草津市は、「(若者の)地域・行政参加、市民協働」という、次世代のまちづくりに不可欠なテーマを担当しました。

本市からは、話題提供として大学生が住民人口の1割を占めるなかで地域との関わりを軸に学生の提案を実際の地域活動に反映させる取り組みの現状と課題を挙げ、他市からは住民の意思が政策に直接反映する参加型予算制度の運用、SDGs や防災等、住民生活に身近な課題を柔軟に参画出来る仕組みづくりを一過性でなくシステムとして構築していく必要性を共有したところです。

コロナ禍以降、対面による関係者会議もオンライン協議が通常となった今日、業務効率と併せて情報共有がよりスピード感をもって対応が可能となっています。

各グループのテーマ	参加自治体数
①AI・ビッグデータ・IoT・DX推進	10
②(若者の)地域・行政参加、市民協働	8
③幸福度関係(ウェルビーイング)	4
④人口減少	12
⑤少子高齢化	5
⑥地方創生・地域活性化	5
⑦関係人口	5
⑧EBPM	3

成果報告会では、各グループのメンバーが国や先進自治体の最新施策を多角的に分析した発表がおこなわれ、終了後に荒川区自治総合研究所長から、「多くの先進事例や成功事例が報告されており、課題を抱える自治体には非常に参考になるものであり、各自治体に応じたアレンジも必要になるが参考にしてほしい。今後も自治体間の横の連携を進めより良い政策の実現に努力してもらいたい」との講評をいただきました。

幸せリーグにご興味をお持ちの方は、幸せリーグHP (<https://rilac.or.jp/shiawase/>) をご覧ください。